

令和3年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会部会開催報告について

令和3年度に開催した5部会の実施内容や成果等を報告します。課題や今後の取り組み事案を参考に、来年度以降、各部会で検討していきます。


資料

部会名	回数	開催日	テーマ	参加者	実施内容	成果・効果	課題・今後の取り組み
		開催場所	開催目的				
子ども支援部会	第1回	令和3年11月1日（月） 市役所 大会議室	『医療的ケアが必要な子どもの配慮すべき事項及び支援について考えよう』 医療的ケアを必要とする子どもの在宅生活者の現状を知るとともに、療育・医療で配慮すべき事項を学び支援に役立てる。	・委託相談支援事業所 ・短期入所 ・相談支援事業所 ・放課後等デイサービス事業所 ・児童発達支援事業所 ・子育て支援課 など26名	・市から、令和3年9月施行の「医療的ケア児支援法」の目的や施行背景を説明した。 ・「医療的ケアが必要な子どもの配慮すべき事項及び支援方法について」をテーマに、NPO法人障害をもつ子供の家族会代表 日比ゆかり氏と医療が必要なご家族と一緒に参加していただき、実際の支援方法を見せていただいた。また、動画や写真等を交えて、今までの支援状況、母としての思い等について話をしていただいた。 ・医療的ケア児を受け入れる放課後等デイサービス等の現状について、「ハイタッチ」の児童発達支援管理責任者と日比氏を交え、参加者からの事前質問とともに意見交換を実施した。	・「医療的ケア児支援法」の周知を図ることができた。 ・実際の医療的ケアが必要な方とその家族の話が聞け、医療的ケアの具体的なイメージを持つことができた。また、在宅支援の現状について理解を深めることができた。 ・理解を深めることで、事業所には受け入れをしてもらえるように促した。 ・各機関による連携の大切さの再確認につながった。	・医療の進歩とともに医療的ケア児が増えているなか、福祉や教育での受け皿の確保、体制整備が課題。 ・実際の医療的ケア支援についての周知、理解啓発が必要。 ・病院等の現場の意見を聞きたいとの意見が出ており、関係機関の連携の機会や医療的ケア児への理解を深める機会の場を設け、引き続き、受け入れ事業所の確保に努める。
							
暮らし支援部会	第1回	令和3年8月25日（水） リモート会議	『地域生活支援拠点等の運用について』 地域生活支援拠点の登録対象事業所間で意見交換を行い、登録に際し、不安なことなどを共有する。地域生活支援拠点の運用方法や緊急対応における受け入れが困難な場合の対応策を考える。	市内地域生活支援拠点等登録対象事業所 ・委託相談支援事業所 ・施設入所事業所 ・短期入所事業所 ・生活介護事業所 ・居宅介護事業所 ・部会委員 など15名	・市から、地域生活支援拠点等の整備について説明した。 ・西濃圏域地域生活支援拠点の登録をするうえで運用に不安な点等を含め、次の2点について意見交換や情報共有をし、運用可能な方法等について検討した。 ①各事業所における取組状況について ②登録に関する課題等について	・運用上の課題が多く、各事業所が受け入れに不安を感じる点や受け入れ後の支援について不明に思う点があることが分かった。一方で、各事業所は地域の障がい者のために協力していきたい意向があることが分かった。 ・一つの事業所の負担とならないよう、各事業所が協力できる体制が必要であることを改めて確認した。 ・緊急時は短期入所だけでなく、居宅での支援が現実的であり、居宅介護事業所の拠点登録要件を緩和する必要があることが分かった。	・課題を整理し、よりよい方策について行政・事業所等含めて話し合い、協力できる体制としていく。 ・拠点登録できる居宅介護事業所の要件を緩和し、適切な運用ができるよう西濃圏域障がい者総合支援推進会議へ伝えていき、西濃圏域での運用を進めていく。
暮らし支援部会・子ども支援合同部会	第2回	令和4年1月17日（月） リモート会議	『強度行動障がいへの対応について』 行動障がいのある障がい児者への関わりは難しく、事業所や家族が対応に苦慮しているという相談が増えている。強度行動障がいへの対応事例を学び、地域での受け入れができる体制づくりに役立てる。	・障害児通所支援事業所 ・生活介護事業所 ・相談支援事業所 ・部会委員 など27名	・事前アンケートを実施。各事業所が行動障がいのある方の対応方法で苦慮していること・工夫した取組み・工夫したが上手くいかなかった事例、保護者からの相談の対応事例を聞き取り、取りまとめ当日配布。現状把握と情報共有をした。 ・地域で知的障がいを伴った自閉症の方を受け入れようと自閉症援助施設を開設した社会福祉法人至誠会 ル・リアン 施設長 平下博文氏より強度行動障がいの対応方法等を話していただいた。事前アンケートへのアドバイスを実施した。 ・障害児通所事業所と障害福祉サービス事業所で障がい児の将来を見据えた支援についての意見交換を行った。	・事前アンケートにて各事業所の現状を把握することができた。行動障がい児者への対応で苦慮している事例が多く寄せられ、改めて強度行動障がいの受け入れ、対応の難しさが分かった。 ・強度行動障がいを受け入れる際に必要な支援について理解を深めることができた。専門的知識を学ぶ場が必要であることが分かった。 ・理解を深めることで、事業所には受け入れをしてもらえるように促した。 ・障がい者への支援を知ることで、障害児通所事業所の支援が、将来を見据えた支援になるよう促した。	・強度行動障がいへの正しい知識、理解啓発が必要。 ・障がい児のときから将来を見据えた支援ができるような職員育成等の機会が必要。 ・個別事例検討会の実施や個別対応へのスーパーバイスの機会が必要。そうした機会を設け、引き続き、受け入れ事業所の確保に努める。
就労支援部会	第1回	令和3年8月30日（月） リモート会議	『障がい者にとって魅力的なガイドブック作成について考える』 事業所とともに「大垣市障がい者就労支援事業所ガイドブック」の内容検討を行うことで、現場の意見を取り入れ、分かりやすいガイドブックを作成する。	・委託相談支援事業所 ・就労継続支援事業所A型 ・就労継続支援事業所B型 ・就労移行支援事業所 ・部会委員 など14名	・市から、市内就労支援事業所の利用状況について説明をした。 ・事業所の意見を組み入れて、現状の問題点等の整理を行いガイドブックの内容について協議を行った。 ・「大垣市障がい者就労支援事業所ガイドブック」の見直し及び現状の課題について意見交換をした。	・部会の参加者から、現場の問題点や課題について聞き取りを行った。ガイドブックに、一般就労への取り組み、休憩室の有無、昼食の有無等の項目の追加の提案を受け、より分かりやすいガイドブック作成につながった。（令和3年11月に発行）	・事業所同士で抱える課題などケース検討をして、好事例について学ぶ機会を持つ。 ・障がい者を受け入れる企業側の意見を聞きたいとの意見があり、話を聞く機会や意見交換の場を設ける。
	第2回	令和3年12月23日（金） リモート会議	『企業が求める人材とは』 『賃金向上に向けてアンテナを張ろう』 ・企業が求める人材について、大垣公共職業安定所より学び、今後の支援に役立てる。 ・事業の販路拡大のため、ふるさと納税について理解を深める。	・委託相談支援事業所 ・就労継続支援事業所A型 ・就労継続支援事業所B型 ・相談支援事業所 ・部会委員 など14名	・大垣公共職業安定所総括職業指導官 山真弓氏から「企業が求める人材とは」をテーマに公共職業安定所の障がい者の就労支援について、就労パスポートについて、就労につながった事例紹介などを話していただいた。 ・市から、ふるさと納税の仕組みについて説明した。また、ふるさと納税に取り組む事業所「新家サテライト」のサービス管理責任者から、リモートにより、事業所内の見学や事業説明を受けた。	・大垣公共職業安定所の取り組みや大垣管内の障がい者の就労状況について現状の理解を深めることができた。 ・ふるさと納税の仕組みについて知ることができ、自主製品の販路拡大のツールの一つとして理解を深めることができた。	・各事業所が賃金向上や企業が求める人材育成に努めるよう取り組める場づくりが必要。 ・相談支援員と就労支援事業所が就労支援に向けた取り組みや考えを合同で検討したいとの意見が出ており、今後合同で実地していく。

令和3年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会部会開催報告について

令和3年度に開催した5部会の実施内容や成果等を報告します。課題や今後の取り組み事案を参考に、来年度以降、各部会で検討していきます。

資料

部会名	回数	開催日	テーマ	参加者	実施内容	成果・効果	課題・今後の取り組み
		開催場所	開催目的				
権利擁護部会	第1回	令和3年12月13日(月) 市役所 大会議室	『日頃ちょっと気になる対応…「虐待の芽」を検証しよう』 障がい者の虐待防止について理解する。	・障害福祉サービス事業所 ・障害児通所支援事業所 ・相談支援事業所 ・委託相談支援事業所 ・管理者 ・部会委員 など26名	・市から、大垣市障害者虐待防止センターへの通報件数等について報告をした。 ・事前アンケートを実施し、日頃の支援で「この対応はちょっと気になる」と自分の行為や他職員の行為で感じる事例をあげてもらい現状を把握した。 ・愛知県知的障害者福祉協会権利擁護委員会委員長の鎌田博幸氏を講師に招き、事前アンケートで集まった障がい者への対応事例を基に障がい者の虐待防止研修会を開催した。 	・虐待防止の近道は「虐待の芽」を摘むことと言われており、ちょっと気になる対応に気づき、早いうちから事業所内で話し合うことが大切であると認識した。 ・事前アンケートにあげられた事例は虐待に近いものもあり、これまで行ってきた対応は虐待に当たる可能性があるということについて理解を深めることができた。 <div>＜自分が利用者さんだったら体験ワーク＞ ・講師の指示したところ(頭や顔など)、指示したことば(何度言ったら分かるのなど)を職員役、利用者役になって体験しました。 どんな気持ちになったか、利用者さんの立場になって話をしました。</div>	・「障害者福祉施設等における障害者虐待防止と対応の手引き」の事業所内での熟読を徹底し、虐待行為例の認識を深める。 ・虐待に対する意識が他の支援者にも深まるよう、今後も研修の継続が必要。 ・令和4年度より義務化される障害者虐待防止の更なる推進の周知、徹底をする。
	第2回	令和4年1月20日(木) オンライン講演会	『障がいがある子の家族が知っておきたい「親なきあと」』 障がい者を持つ家族の高齢化、家族の脆弱化が進む中、親なき後を考える必要性が出てきている。そこで、市内の障がい者を持つ家族と支援者に、親なき後の現状や課題について情報提供し、親があるうちにできることについて考えてもらう機会を作る。	・障がいがある人の家族 ・相談支援事業所 ・委託相談支援事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・部会委員 など30名 ※今後、上映会を開催予定	・「親なきあと」相談室関西ネットワーク代表理事の藤井奈緒氏による講演会を開催した。 ・プロフィールブック「親心の記録」の作成のポイントについて、講師自身の例をもとに、教授いただいた。	・親あるうちにできること、お金の貯め方や、支援者との関係の築き方などについて、知ることができた。 ・参加者の感想で、大変貴重な講演だったというご意見をいただいた。また、講演会後に「親心の記録」を複数の方が受け取りに来られ、今後に役立てるきっかけとなった。 ・定員以上の申込みがあり、関心の高さがうかがえ、家族の不安解消への支援が必要であることが分かった。	・急遽、オンラインの講演会となったため、アンケートは未実施。今後、上映会を行う際、アンケートを実施する予定。 ・親なきあとのことは、障がいを持つ親の関心ごとであり、今後も市民のニーズを聞きながら、親なきあとをテーマとした講演会(勉強会)を行う。
相談支援部会	第1回	令和3年11月8日(月) 市役所 大会議室	『精神障がい者にも対応できる地域包括ケアシステムについて～精神障がい者の地域移行を中心に～』 精神障がい者の地域移行に向けた各機関の取り組みと、今後の課題について理解する。	・医療機関 ・保健所、保健センター ・相談支援事業所 ・委託相談支援事業所 ・部会委員 など18名	・市から、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムについて説明をした。 ・西濃地域での精神科病院からの地域移行の現状と課題について、次の点について各機関の立場から発表していただいた。 ①医療機関における現状と課題 ②地域における現状と課題 ③地域にどのようなシステムが必要か ④一緒に協議したい機関	・コロナの影響で、地域移行もなかなか進んでいかない現状を知ることができた。 ・入院が長ければ、長いほど移行するのに時間を要することがわかった。 ・本人に困り感のない精神疾患患者への介入方法にはまだまだ課題があると感じた。 ・地域の人への精神障がい者への理解には課題が多いと感じた。	・地域における精神障がい者の理解が必要。周知、理解啓発が大切。 ・精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムは一つひとつの事例を重ねながら構築していく。 ・関係機関との連携が必要であり、顔の見える関係づくりができる場づくりに取り組み、連携を深めていく。
	第2回	令和4年1月26日(水) リモート会議	『相談員同士で話そう!!』 相談員同士が悩みを共有し、解決に向けて話ができる。	・相談支援事業所 ・委託相談支援事業所 など7名	・市から、障害福祉サービスについての連絡事項、地域生活支援拠点等の整備について、緊急時リストについて伝えた。 ・相談員が普段悩んでいることについて、話し合いを行った。	・相談支援専門員が一人だけの相談事業所も多く、悩みながら相談にあたっている相談員が多いと感じた。 ・各相談員が悩んでいること、問題と感じていることなどを相談員同士共有することができた。 ・相談員同士で気軽に話し合う機会が必要だと感じた。 ・委託相談と特定相談支援事業所の連携について、うまく連携できていない現状があることが分かった。	・相談員が悩みをひとりで抱え込まないような支援が必要。 ・新型コロナウイルス感染症の急拡大により、急遽オンラインでの開催となった。オンラインでは、気軽に話すのは難しかったため、タイミングを見ながら対面での開催をしていく。